

南アフリカ為替週報

2021年12月23日 | みずほ銀行欧州資金部

<過去1週間の動き>

(12月16日～12月22日)

USD/ZAR: 15.6675～16.0275
ZAR/JPY: 7.09～7.27 (参照値)

過去1週間の南ア・ランド相場は、対ドルで、引き続き年初来安値圏における値動きではあったものの、堅調気味の横ばい。16日は南ア市場が休日で、小動き。17日から、週末を挟んで20日にかけてのランドじり高は、並行した南ア国債の上昇(利回りは低下)を好感した可能性が考えられた。ただ、南ア国債の上昇は、米国債の上昇に連れた値動きと思われる、特段の南ア要因による値動きとは思われなかった。敢えて挙げるなら、15日、南ア電力公社(Eskom)が発表した21年度上期(4～9月)決算が、予想外の大幅黒字だったことを好感した可能性も考えられなくはなかった。確かに、Eskomは南ア財政にとっても「(終わりの見えない財政支援を要する)底なし沼」のような存在で、その好決算は、南ア財政/南ア国債にとって好材料には違いなかった。それでも、16日が現地休日だったとは言え、15日の現地時間夕方時点の発表されていた同決算を、17、20日の市場が材料視したと考えるのは、些か無理が過ぎたのではないか。21日以降、南ア国債は(やはり米国債に連れて)反落したが、ランドは、軟調ながらも「高止まり」と言える値動きを続けた。この間、対円でもランドは堅調気味の推移を支配的とした。21、22日の値動きは、円全面安と言える値動きの一環と思われたが、米連銀による金融引締め加速やオミクロン株の蔓延などに対する懸念が押し下げている株価全般が、世界的に底打ち反発に転じたことが、リスク許容度を高め、円安を誘ったものと考えられた。

<向こう3週間の見通し>

(12月23日～1月12日)

USD/ZAR: 15.400～16.000
ZAR/JPY: 7.10～7.40

向こう3週間の南ア・ランド相場は、方向感を欠いた横ばいを予想。上述の通り、過去1週間の値動きで、ランドが南ア固有の要因で動いた気配はほとんど読み取れなかった。21日以降の円全面安は、リスク許容の円売りという位置づけであった。何がリスク取得を許したかという問題は置いておいて、リスク許容=需要回復期待ということで、とりわけ、豪ドル、加ドル、ロシア・ルーブルなど、所謂資源通貨の堅調(対円での上昇)が目立った。ランドも重要な資源通貨のひとつであったはずだが、何故かその値動きは「忘れられている？」かのようなようだった。世の中全般をオミクロン株の脅威が席卷し、商品市場では欧州天然ガス価格の史上最高値更新が目を引き、通貨市場においてはトルコリラの乱高下が刮目され、地政学的リスクでは東ウクライナ情勢への懸念が深まる中で、南ア(ランド)はまるで「忘れられた」かのような存在に見える。そのこと自体、通貨の安定という目線で、決して悪いことではなからうが、①財政立て直しにも②電力供給安定化にも③南ア準備銀利上げにも④コロナ禍動向にも⑤貿易/経常収支動向にも、市場が材料視して飛びつくような変化がないのである。その変化のなさ、④と⑤は「安定」と受け止められて好感され可能性が高く、③は市場の思惑と現実のギャップが方向感を生むものと見込めるが、①と②に関しては「停滞」と受け止められる可能性が懸念されるだろう。年末年始のこの時期に、今迄動かなかったものが、敢えて動き出すと見込む要因がないのが、横ばいを見込む理由。ラマポーザ大統領が誕生(2018年2月)してから、もはや4年近くが経とうとしている。来年こそは、①、②の分野において、誰の目にもはっきりとわかる「前進」を期待したいものと思う。

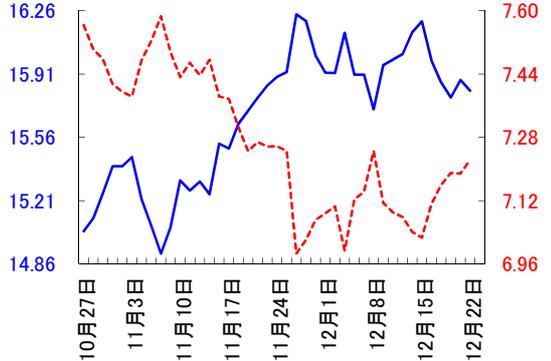
<向こう3週間に発表予定の主要経済指標等>

| 月日 | GMT | 指標 | 期間 | 発表 | 予想* | 前回 |
|-------|-------|--------------|-----|----|---------|---------|
| 12/30 | 12:00 | 財政収支(ZAR) | 11月 | | -10.3bn | -36.8bn |
| 12/31 | 6:00 | 民間部門信用(前年比) | 11月 | | +1.30% | +1.29% |
| | 12:00 | 貿易収支(ZAR) | 11月 | | +24.8bn | +19.8bn |
| 1/7 | 6:00 | 総外貨準備高(USD) | 12月 | | | 57.62bn |
| 1/10 | | 自動車販売統計(前年比) | 12月 | | | +6.6% |
| 1/11 | 11:00 | 製造業生産(前年比) | 11月 | | | -8.9% |

(*予想はブルームバーグ社予想中心値)

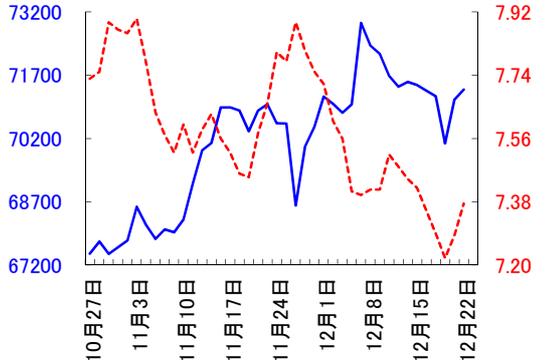
為替相場の推移(資料:ロイター)

実線/左軸: 対米ドル、点線/右軸: 対円



株式/長期金利の推移(資料:ブルームバーグ)

実線/左軸: JSE全株、点線/右軸: 10年スワップ金利



南アフリカ関係主要経済指標

| | | |
|----------------------|--------|----------|
| 政策金利(レボ金利) | | 3.50% |
| 長期金利(10年スワップ) 12月22日 | | 7.375% |
| 株価指数(JSE全株) 12月22日 | | 71359.04 |
| 成長率(GDP/前年比) | Q3 | +2.9% |
| 経常収支(ZAR) | Q3 | +226bn |
| 失業率 | Q3 | 34.9% |
| 消費者物価(前年比) | 11月 | +5.5% |
| 小売売上高(前年比) | 10月 | +1.8% |
| 製造業生産(前年比) | 10月 | -8.9% |
| 鉱業生産(前年比) | 10月 | +2.1% |
| 貿易収支(ZAR) | 10月 | +19.8bn |
| 金価格(ロンドン 17:00) | 12月22日 | 1798.34 |

<お知らせ>

筆者休暇、英休日のため、今回の「南アフリカ為替週報」は1月13日の発行を予定しております。ご迷惑をお掛けし申し訳ありませんが、よろしくご諒承ください。今年も1年大変お世話になりました。皆さま、よいお年をお迎えくださいませ。

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。